

# 北海道小学校長会

## 第3回 理事研修会

### 研究副主題・分科会構成について

令和元年9月12日

今回は、令和2年度からの副主題の変更と令和3年度からの分科会構成の変更についてご提案させていただきます。「研修部」の冊子をご用意ください。まず、副主題の変更案について説明させていただきます。

前回の理事研修会において、副主題変更の理由と基本的な考え方について説明させていただきました。その後、資料にありますように全連小研究主題および活動方針の分析、道小研究大会の研究のまとめ、文部科学省や道教委から出されている、教育振興基本計画や教育行政執行方針、北海道教育推進計画、学習指導要領や中教審の答申などを吟味検討し、副主題の変更案を作成いたしました。

P10にある通り、「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる 学校経営の推進」とご提案させていただきます。各文言の意図や願い、それらの根拠になっているものの詳細については、資料をご参照いただきたく存じますが、ここではかいつまんで要点のみ説明いたします。

「ふるさとに誇りと愛着をもち」という文言は、北海道教育行政執行方針の中でも用いられているものです。「ふるさと」は、H29年の改訂時から用いられており、昨年の函館大会のまとめにおいても「地域密着」ということでふるさとを一層大切にしていくことが挙げられています。

「ともに」については、全連小の主題でも使われており、今後の社会で多様な他者との共生、協働が一層重視されることから入れた言葉です。また、「挑戦」はH20年から用いられている言葉であり、北海道の開拓者魂、フロンティア精神を今後も大切に、多くの人々と手を携えつつ今後の社会の創り手として挑戦してほしいという願いを込めています。

全連小の主題の新旧対照表、稚内大会、函館大会の研究のまとめなども掲載しております。後程ご覧ください。

次に、P22の分科会構成の見直しについて、ご覧ください。

前回お話ししましたように、領域Vの12分科会「自立と共生」について、特別支援教育と環境教育の2つの視点で研究を進めてきましたが、両者の接点が少なく話し合いにおける関わりが難しいという反省がありました。

全連小においては、令和2年の京都大会から資料にありますように、特別支援教育の視点と「共に生きる社会の実現に向けた資質・能力を育む教育の推進」が新たな視点となります。つまり、共生については、他者との共生について研究していくこととなります。

道小においても、これらを踏まえて京都大会と同様の分科会構成にしていきたいと考えています。なお、環境教育について取り上げる場合は、教育課程等に含めるなど考えていきたいと思っております。

最後に、開催する分科会数についてです。

会員数の減少による分科会人数の減少、開催地区によっては13会場の確保の難しさが、また予算面の負担、一つの分科会の人数についてもかつては60数名で行っていましたが、現在は45名以下となっており、今後さらに減少する見込みです。

これらを総合的に勘案し、開催する分科会を11分科会とし、P25にありますように領域Ⅲ（指導・育成）とⅣ（危機管理）については、一つずつの開催とし隔年で設定するように考えました。なお、全国大会の前年（R7年）には元に戻すこと、全連小大会で発表することになる分科会によっては、変更の可能性があることも含んでおります。

なお、正式決定は第4回理事研修会としたいと思っておりますので、地区からのご意見等がある場合は、10月中にお寄せいただきたく存じます。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。